

住民主体の地域づくり推進のために

はじめに

地方分権が進展している今日、各自治体においては、横並びの画一的なまちづくりに代わって、地域色の濃いまちづくりが主流となっています。

このような時代においては、地域の課題を住民が中心となって解決していく力、いわゆる“自治力”が必要となります。

福井市においては、この“自治力”醸成のための第一段階として「市民参加型のまちづくり」施策を10年にわたり展開し、深い郷土愛や強い連帯意識が芽生えるとともに、地域のリーダーが育成されるなど一定の成果を上げてきたところです。

このような10年間にわたるまちづくり事業の総決算の場として、また、新たな出発点として、今回、「住みたくなるまちづくり全国交流大会」を開催する中で、全国のまちづくりに携わる関係者と今後のまちづくりについて様々な意見交換を行いました。

これらの意見を踏まえ、今後のまちづくりの基本的な考え方をまとめましたので、ここに提言します。

まちづくり提言

(これからのまちづくり)

●住みたくなるまちは、私たちがつくります。

地域をよく知ることによって生まれる気持ち、まちを愛し誇りに思う気持ちを大切に、本当に住んでいて良かったと思える地域づくりのため、私たち自らが主体となって考え、責任を持って活動していきましょう。

●まちづくりに参画することに、意義と誇りを持ちます。

まちづくりは、地域の課題などの明確な達成目的をもち、地域の人が自由に対等な立場で参画できる開かれた環境をつくることが大切です。

地域の力はそこに住む人の総合力です。地域に関心を持つ人を一人でも多く増やしていきましょう。

●交流による地域の新たな絆づくりとともに、行政・NPOなどとの連携・協働に努めます。

より効果的・実効性のあるまちづくりのため、みんなで協働して知恵や力を出し合いながら、地域社会の現場から課題を発見・共有し、解決していきましょう。

まちづくり、地域づくりは息の長いもの。
一步一步着実に、みんなで楽しく進めましょう。

平成16年10月10日

住みたくなるまちづくり全国交流大会実行委員会